

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

# なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ  
 承認 1982年 8月24日  
 例会日 火曜日 12:30  
 例会場 愛知厚生年金会館  
 事務局 ☎763-5110  
 会長 加藤 敏昌  
 幹事 青山 敏郎  
 会報委員長 小池 宗

No. 35

## ROTARY BRINGS HOPE ロータリーは希望をもたらす

1986～87年度

RI会長 M.A.T. カバラス

第229回例会 昭和62年3月10日(火) 晴

### ◇ “奉仕の理想”

### ◇ 出席報告

会員 57名 出席 41名

出席率 71.93%

前回 3月3日 (修正出席率) 100%

### ◇ ビジター紹介 4名

### ◇ お誕生日祝福

谷口夫人(3/1)、松居夫人(3/2)、斉藤夫人(3/14)、安藤夫人(3/16)

### ◇ ニコボックス

小笠原 清君 中日新聞社 田村論説主幹をお迎えして。

谷口 暢宏君、松居 敬二君、斉藤 康二君、安藤 銀之助君 夫人誕生日祝い。

林 淳三君、永井 正義君、太田 茂君

結婚記念日祝い。

### ◇ 青山幹事報告

1. 第260地区長野ロータリーアクトクラブより年次大会(5/4、5)のご案内がきております。参加希望の方は事務局までお申し出下さい。

### ◇ 加藤(敏)会長挨拶

今日は胆石症についてふれてみます。胆石症は、だいたい全人口の8%に見られ保有率は年齢と共に上昇し、高齢者では保有率が高くなって参ります。特に男性では肥満者に多いようです。スライドのような胆嚢内胆石のみの場合は、手術的にこれを除去する事は、そんなに難しい事ではありませんが、肝臓内胆管に存在する胆石は現在でも尚その治療に難渋します。最近造影剤を使用し胆嚢はもとより、胆管も肝内の微細なところまで、ファイバースコープを用いて造影する事が出来るようになりました。加えて超音波により胆石の存在は簡単に確定診断が出来ます。胆石が誘因となり胆嚢炎を招来し、或いはそれが

穿孔し胆汁性腹膜炎を合併すると致命的な事にもなりかねません。当然ながら強い仙痛発作は勿論黄疽を伴ってきますと、麻酔或いは手術的操作において少なからず「Risk」を伴います。更に胆嚢内結石が誘因となり、胆嚢癌をおこしてくる場合もありますので、癌治療を目的とする特殊病院においても、胆石に限っては手術が行われる場合もあるようです。特に最近では食生活が欧米並になりその病態も変化して参りました。

### ◇ 講演

“時事問題”

中日新聞社論説主幹

田村 新次 氏 (紹介 小笠原君)



きょうは「時事問題」という、勝手なテーマにさせていただきましたが、売上税や日米経済摩擦といった生ぐさい問題はちょっと横へ置きまして、四全総(第四次全国総合開発計画)をめぐる中央(東京)と地方の対立と、今後の見通しについてお話をさせていただきます。

四全総というのは、昭和45年度から60年度までを計画期間とした三全総の後を受け、61年度から75年度までを計画期間とするもので、いわば21世紀をめざす国造りの指針となるも

のです。

さて、この四全総をめぐる、最近、大きな動きが2つありました。

1つめは、昨年の暮れに国土庁から発表された四全総の中間報告に対し、九州や北海道をはじめとする地方が猛反発をしたこと。2つめは、さる3月6日、綿貫国土庁長官の私的懇談会である国土政策懇談会（座長・加藤一郎成城学園長）が、四全総の中間報告を批判するような提言をしたことです。

問題の焦点は、国土の中核機能を東京に1点集中させることの是非にあります。

四全総を策定するに当たった基本理念は、多極分散型国土造りにあったのですが、先の中間報告は180度Uターンして“東京1点集中”型国土造りを進めるという印象を強く与えたため、地方はその変節をなじり、猛反発したわけです。

四全総がなぜそのような軌道修正をしたのか。それは、中曽根首相の「東京は今後、日本の首都にとどまらず世界経済の中心都市になる。とすれば、四全総で東京の見直しをする必要があるのではないか」との指示によるものだとされています。

しかし、私は国土庁側の過剰反応としか思えません。首相の言ったことは間違っていない。東京の地価の暴騰ともいえる上昇は、けっして不自然でも何でもなく、東京が今世紀中にニューヨークからバトンタッチされて、世界経済のセンターになるという科学的な予測に基づくものです。

具体的にいえば、地上150メートル級（60階建て）の超高層ビルが200棟から230棟ぐらゐ東京に必要とされています。そうだとすれば、四全総の中で、東京の社会資本充実計画の見直しが必要となるのは当然で、首相の指示は極めてタイムリーであったといえましょう。

ところが、国土庁がまとめた中間報告は、これからは経済をはじめあらゆる中核機能は東京に集中するのだから、東京優先・重視の四全総をーと、多極分散型国土造りの当初理念を忘れ去ったかのようなものになってしまったのです。これは中曽根さんの本意ではなかったと思います。

「1村1品」の村起こし運動で知られる平松大分県知事が「東京がコンピュータの本体で、地方は端末。東京さえよくなれば、全国はその恩恵を蒙るー」という四全総中間報告は、成り行き追認・是認にすぎず、政策でも計画でもない」と批判していますが、これはそのとおりだと思います。

ところで、これからの東京の行く手を阻む

大きなカベは、世界経済のセンターと日本国の首都を混在させてうまく機能できるかということ。つまり、ニューヨークとワシントンをごちゃ混ぜにしたような都市が、果たして生きてゆけるかどうか。ニューヨークのマンハッタンみたいな摩天楼の林立する東京になるわけですが、その中に皇居や国会議事堂を置いておけるのかということ。です。

東京が世界経済の中心になるとすれば、日本国の政治・行政の中心は東京からよそへ出すべきだと思います。その行き先の最有力候補地は、この中部をおいてありません。

#### ◇RIニュースより

ポリオ・プラス「ナショナル・コーディネーター」活躍中

70人のロータリアンが「ナショナル・コーディネーター」に指名され、このほど、ポリオ・プラス・キャンペーンに協力するために特別訓練を受けました。この人達は、数を増やし続けるポリオ・プラス・ボランティア部隊に加わります。ボランティア達は、世界の児童に免疫を受けさせるために来る2年間米貨1億2千万ドル集めるために時間とエネルギーを投入しています。

この新しい指導者の研修セミナーは、9月と10月に、世界4カ所で開催されました。エバンストンで開かれた最初のセミナーは、USCB地域のコーディネーターのためのものです（米国25名、カナダ3名）。他のセミナーは、SACAMA地域のコーディネーターに対しては、ブラジルのフォス・ド・イグアスで、CEEMAとCB&Iの場合は、ルクセンブルグで、アジアとANZOの場合は、フィリピンのマカティーマニラで開かれました。

各ナショナル・コーディネーターは、1週間以内に少なくとも1人の「大口」寄付をしてくれそうな人を訪問し、さらに、次の週に、2人以上の人を訪問するよう要請されました。その結果、USCBセミナー後の1週間に、米貨10万ドル以上の寄付の誓約を3口受理しました。

#### ◇例会変更のお知らせ

名古屋瑞穂RC 3/26(木) F.S.M.の為、かすが荘にてPM 6:00より

名古屋南RC 4/1(木)創立30周年記念式典の為、PM 2:00より

#### ◇次回例会（3月17日）

講演 “香を聞く”

石川 阿季子 さん（紹介 谷口君）

#### ◇次々回例会（3月24日）

講演 “鷹と自然保護”

日本ワシタカ研究センター常務理事、所長  
中島 欣也 氏（紹介 斉藤君）